

境町歴史民俗資料館だより

河岸町の歴史

MUSEUM

2019.1 VOL. 13

江戸幕府による
利根川東遷と治水事業

A

K

A

I

徳川家康は
いかにして
関東平野を
開拓したのか？



江戸幕府による 利根川東遷と 治水事業



「徳川家康銅像」写真提供 岡崎市観光協会



徳川家康は いかにして 関東平野を 開拓したのか？

1603(慶長八)年に江戸に入つた徳川家康は、豊臣秀吉の江戸転封命令によって江戸入府以来、関東地方の広大な湿地帯と不毛地帯をいかにして多くの人が住める肥沃な土地にするかを考えていました。

やがて家康は関東地方の現状を知るため、鷹狩りと称して関東一帯の徹底的な現地調査を行いました。その結果、家康は日本一広大で、肥沃で、豊富な水源に恵まれた温暖な土地「関東平野」を探し当てたのです。これが二

百年続く徳川の天下を磐石にすることとなりました。

しかし、江戸時代以前の利根川は、隅田川から江戸湾に注いでいた暴れ川で、利根川の中下流域は広大な低湿地帯になっていました。当時の関東平野は、利根川と荒川の二大河川が江戸湾に流れ込んでいたため、極めて水はけが悪く、降雨の度に浸水する劣悪な土地だったのです。

国土プランナー 徳川家康



そのため、家康は利根川を江戸から遠いところへバイパスさせ、水はけを良くすることによって肥沃な水田地帯を造成する国土プランナーを推進したのです。江戸幕府は低湿地の排水による水田化、高瀬舟たかせふねを使った水

運しきん(舟運)、飲み水の確保、江戸の外堀の見地から、利根川を鬼怒川の流路に入れる東遷工事を計画しました。

1594(文禄三)年、はじめに家康が行った工事が関東地方の湿地帯を乾陸化することでした。そのため、武蔵国の川俣むさしのくに(現在の埼玉県羽生市北部)で「会の川の締め切り」といわれる河川工事を行い、二つに分かれていた利根川流域を一つに絞りました。

この重要な大土木事業の工事責任者として、四男の松平忠吉まつだいらただよしを忍城わしじょう(現在の埼玉県行田市)の城主に任命し、利根川の治水事業と関東地方の新田開発に専念させました。この会の川の締め切りこそが、一大湿地帯である関東地方を乾陸化させる重大な最初の一步だったのです。

利根川流域図



【赤堀川の掘削】
赤堀川の名前は、関東ローム層（赤土）を掘削してできた川であることが由来とされています。

【会の川の締め切り】
家康は洪水に悩まされていた江戸を守るため、元々中川流系で江戸に流れていた会の川を締め切り、流路を江戸湾から太平洋に変える工事を行いました。

- 凡例
- 基準地点
 - 主要な地点
 - 流域界
 - 既設ダム
 - 建設ダム

国土交通省 関東地方整備局 利根川ダム統合管理事務所 ホームページより

関東平野から太平洋へ

豊臣秀吉が亡くなった後、1600(慶長五)年に関が原の合戦で石田三成率いる西軍との戦いに勝利した家康は、1603年には朝廷から征夷大將軍に任じられ、徳川氏の覇権を確立させました。この頃から利根川の暴れ川を銚子から太平洋に流し、広大な新田を獲得するための自然との闘いを本格的に始めています。

1604(慶長九)年、徳川家康はお手伝い普請制度を設け、幕府の権限によって日本全国の諸大名を動員し、大名の財力や人材を利用して大土木事業を再開したので。こうして1621(元和七)年、現在の栗橋と関宿との間に利根川と西の流域を結ぶ長さおよそ1kmの赤堀川が開通したので。

こうした下総台地の開削によって、利根川が常陸川とつながり、銚子から太平洋へと流れるようになりました。さらに、赤堀川の拡幅工事は、1625(寛永二)年と1654(承応三)年と二度にわたって実施され、本格的に利根川は江戸をバイパスして太平洋へと流れるようになったのです。

しかしながら、利根川の流路が変わっても自然の猛威は凄まじく、利根川下流域となった地域では洪水が頻発し、住民生活に甚大な被害をもたらしていました。江戸時代後半、11代将軍徳川家齊の時代の1809(文化六)年には赤堀川が40間(約73m)に拡幅されています。以降、利根川の治水事業は明治・大正・昭和政府へと受け継がれ、利根川上流に藤原ダムや八木沢ダム、中流には渡良瀬遊水地などが設けられています。

(境町歴史民俗資料館 野村正昭)

さかいの街道をゆく

日光東街道と境河岸



船戸閘門前車庫 ふなとこうもんまえしゃこ

年代不明

大正10(1921)年に営業を開始した乗り合いバス停留所の様子です。古河から境までを1日4回往復し、運賃は片道1円20銭(現在の価値でおよそ4000円)でした。こうした乗り合いバスの運行開始は境町における自動車普及のきっかけになりました。

境町歴史民俗資料館では現在、境の歴史を広く皆様に知ってもらい、資料館を利用しやすい環境に整えるための取り組みとして、資料館運営ボランティア「下総さかい河岸の会」のメンバーを募集しています。

かつて宿場町として栄えた境町・境河岸の歴史を楽しく学びながら、町史編纂委員、学芸員と一緒に資料館運営に携わってみませんか。詳しくは境町歴史民俗資料館までお気軽にお問い合わせください。(TEL:0280-81-3353)

境町歴史民俗資料館

〒306-0431 茨城県猿島郡境町西泉田 1326-1

TEL 0280-81-3353 FAX 0280-81-3354

利用案内

[入館料] 無料

[休館日] ○月曜日 ○年末年始(12/28~1/4)

[開館時間] 午前9時~午後4時30分

○祝祭日(土・日曜日は開館しています)

○日・月曜日を含む連休最終日の翌日

交通案内



国道4号バイパス周辺 塚崎交差点(境町)から約15分

圏央道 境古河ICから5分

①JR宇都宮線古河駅

⇒朝日バス「境車庫~釈迦~古河駅西」乗車、約40分 ⇒「中学校入口」下車、徒歩約20分



②東武スカイツリーライン(東武伊勢崎線)東武動物公園駅

⇒朝日バス「境車庫ゆき」乗車、約40分 ⇒「中学校入口」下車、徒歩約20分

